

宮城大学 後援会報

Vol.65

発行日
令和7年9月12日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

主催事業 MYUサポーターズデイ2025

学生発表や先生方との 懇談で有意義な一日

副会長 鈴木 辰也

新緑深まる6月の2日間、22日（日）は大和キャンパス、28日（土）は太白キャンパスにおいて、大学との共催により「MYUサポーターズデイ」を開催いたしました。両日とも気温30度を超える真夏日にもかかわらず、延べ約130名のご家族の皆様にご参加いただき、無事盛況のうちに終了することができました。あらためて、準備から当日の運営までに携わっていただいた関係者の皆様方に感謝申し上げます。

第1部・全体企画の佐々木学長のあいさつでは、今、企業・社会から求められることとして、国際性、課題解決力などがあり、宮城大学の理念「豊かな人間力」にも繋がっているとお話がありました。続いて、平岡先生の学生支援のお話では、卒業時の学生調査で満足度がとても高かったことや、大和キャンパスと太白キャンパスの学生交流の取組みを聴くことができました。

第2部・学群企画では、学群毎に先生方の説明、在学生・卒業生の発表があり、充実した就職支援、良好な就職状況や学生が日々頑張っている姿、卒業生の活躍状況を感じ取ることができたと思います。また、

後援会の学生・大学支援事業で設置したウォーターサーバーが昼間以外に放課後の夜食時にも活用されている話を伺い、とても嬉しく感じました。

キャンパスツアーは炎天下での開催となりましたが、先生方や在学生の案内により、各キャンパスの実習室や図書館などを見学することができ、学生の学修環境を知る貴重な機会となりました。

全ての企画終了後に開催した懇談会は、先生方、発表した在学生・卒業生などを交え、学生が障害者就労施設とコラボしてつくったお菓子などを頂きながら、和やかな歓談となり、実りある情報交換ができました。

参加者からは、「キャンパスのいろいろな施設を知ることができ楽しかった」、「先生方と話すことができ、とても有意義な時間だった」、「安心して通わせることができる」などのコメントを頂きました。

今回、学生生活の様子が分かり親として安心できたこと、また、ご家族、先生方、学生との理解を深める機会となり、とても有意義な一日になったと感じました。

大和 キャンパス



キャンパスツアー



学生発表



卒業生発表



看護懇談



事業構想懇談

太白 キャンパス



キャンパスツアー



学生発表



卒業生発表



卒業生発表



食産業懇談

2025MYUサポーターズデイを記録した動画の配信URLは同封のチラシをご覧ください。

写真撮影：写真サークル FLASH

記事 一覧

- 2面 ● 会長あいさつ／役員紹介／学長メッセージ
- 3面 ● スチューデントサービスセンター便り／事業報告と決算／事業計画と予算
- 4面 ● 入学式／入学者数／新入生交流事業

- 5面 ● 学びの場 アイデアコンテスト／留学体験記
- 6面 ● シリーズ 研究室紹介／絆
- 7面 ● 学位授与式／学生表彰／卒業生の進路
- 8面 ● キャンパスカレンダー／お知らせ／お問合せ先

ーごあいさつー

学生の成長と大学の未来を支える

会長 高橋 かおり



会員の皆様におかれましては日頃より後援会活動へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。昨年度に引き続き今年度も後援会会長を務めさせていただくこととなりました。昨年同様、学生を中心に据えた後援会活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月に開催された後援会総会では、議案はすべて承認されました。今年度も総会後に「キャンパスツアー」を実施し、学生が学ぶ環境や大学の特色をご覧いただきました。普段なかなか足を運ぶ機会の少ない学内を実際に歩いて「見学いただく」として、大学生生活をより身近に感じていただけたのではないかと思います。

近年、大学を取り巻く環境は少子化や国際化、社会構造の変化などにより大きく変わっております。こうした変化の中でも、学生が自分の可能性を信じ、主体的に行動できる環境づくりを支えることが、後援会の使命だと考えております。

昨年度は、学生との意見交換会にて大学祭などで使うテントが不足しているとの声を受け、後援会として対応を検討いたしました。その結果、卒業記念品として、両キャンパスにワンタッチテントを1張りずつ卒業生から大学へ寄贈する形で整備いたしました。今年度は、さらに1張りずつ後援会予算で両キャンパスに追加購入し、学生生活の環境の充実を図っております。さらに、昨年度に引き続き両キャンパスへのウォーターサーバーの設置や年に数回「学食メニュー全品

半額DAY」の開催など、学生生活を支える取り組みも続けております。

このほかにも、入学・卒業記念品の配布、サークル活動や大学祭への助成、就職対策支援、資格取得状況に応じた奨励金の支給など、学生一人ひとりの挑戦を後押ししております。

また、会員の皆様向けのイベントとして、大学の様子を紹介するサポーターズデイや、著名人による講演会も企画運営しております。講演会は地域の皆様にも広く参加を呼びかけ、大学の知名度向上に努め、大学の魅力や存在価値を発信する機会としております。昨年度は落語会の巨匠である立川志らく氏を大学にお招きし、大盛況となりました。今年度は11月22日(土)にテレビでも活躍中の評論家等で著名な竹田恒泰氏を予定しております。

今後も、学生の豊かな大学生活と大学の発展を支えるため、会員の皆様とともに力を尽くしてまいります。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和7年度
後援会役員

1年間
どうぞよろしく
お願いいたします

役職	氏名
会長	高橋 かおり
副会長	大坊 友寿
副会長	鈴木 辰也
副会長	村山 昌志
理事	相沢 敦子
理事	飯田 臣
理事	磯 哲章
理事	遠藤 雄二
理事	大野 健一
理事	加納 純也
理事	鎌田 功紀
理事	黒森 陽一
理事	佐藤 博昭
理事	庄子 佳宏
理事	新鷺あずさ
理事	森田 修
理事	佐竹加代子
理事	高橋 明子
理事	田口 恵

MYUの時代が来ました

宮城大学学長 佐々木 啓一

後援会の皆様、常日頃のご息ご息女の就学へのご支援、そして本学の教育環境、学生活動の充実などへのご支援、ご助言、まことにありがとうございます。おかげさまで学生は、活き活きと学びを続け、日々成長しています。

さて、このところ大学教育の在り方が、改めて問われています。何故かは明らかです。大学進学率は先進諸国に比べれば低いものの60%に迫り、大卒者が社会の要所を占めていますが、我が国は産業力、国際競争力の深刻な低下に喘いでいます。そこでこの状況を打破し、持続可能な社会を築いていくうえで、大学教育の質を考え直そうというのです。令和7年2月の中央教育審議会「知の総和」答申によれば、目指す「育成する人材像」は「持続可能な活力ある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人材」とされています。また、この答申の中では「地域」がキーワードになっており、地域での大学の在り方、「地方創生」への貢献が謳われています。

はて、どういうことでしょうか。我が国の現状が、社会や事業の真の課題を見いだすこと、そしてそれら課題への臨機応変

な対応ができなかったことに起因することは間違いありません。また、これまでの大学教育が専門知を学ぶことにあまりにも注力し、それを活かすための人間力、課題探究・課題解決力、実践力の育成を疎かにしていた、ということ審議会の方々が、今になって気づいたということでしょうか。地域とともに大学が在ることをご存じなかったのでしょうか。

宮城大学は、1997年の建学以来一貫して、これらの力を育てることを重視した学びを提供しています。そして地域に密着した活動を幅広く、厚く展開しています。このことは大学ホームページや私や先生方の各所での挨拶などから、皆様もご存じのことでしょう。私どもの教育は、中教審答申よりもはるかに進んでいます。

時代、社会がやっとな追いついてきました。本学が輩出する人材が、これからますます本来のパフォーマンスを発揮していくようになるでしょう。楽しみにしてください。





今年も暑いが続いています。この原稿を書いている現在は、前期期末試験が始まり、まもなく夏休みに突入する時期です。キャンパス内では、学生たちが試験勉強やレポート作成に励む様子がうかがえます。両キャンパスに後援会から設置していただいている「ウォーターサーバー」は大変好評で、休み時間にはマイボトルに冷たい水を注ぐための列ができています。熱中症予防にも効果を発揮しているようです。

本学には、学生の心身の健康を維持・支援する組織として「健康支援室」が設置されています。保健室や学生相談室、そして日々学生と接している各学群の教職員が連携し、けがや病気、悩み事や相談事に対して、学生一人ひとりに丁寧な対応を心がけています。

保健室では、学生の身体的健康を中心に、突発的な体調不良やけがへの応急処置はもちろん、健康診断の結果に基づくフォローアップも行っています。また、新型コロナウイルス感染症や百日咳などの学校感染症についても注意喚起を行い、近年感染拡大には至っていません。さらに、学生から申告のあった持病やアレルギーを事前に把握し、必要な備えをしています。ご心配な場合は学生を通じて保健室にご相談ください。

学生相談室では、両キャンパスのカウンセラーが、学生が気軽に訪れることができる雰囲気づくりを目指しており、様々な相談が持ち込まれています。例えば進路に関する相談では、卒業後の進路のみならず、在学中の学類やコース選択、ゼミ配属など、選択を迫られる場面で迷う学生も多くいます。また、課題やレポートの進行ペースやスケジュール管理に困難を感じている学生や、グループワークや実習で強い緊張を抱える学生、先生や友人との関係に悩む学生もいます。さらに、ご家族が思い描く自分の姿と現在の自分とのギャップに悩み、言い出せずにストレスを感じているケースも散見されます。

学生たちは成人であるため、私たちが彼らを大人として扱います。困難に直面した際には、自ら判断し行動を起こし、然るべき場所に助けを求めるよう促していますが、なかなか一步を踏み出せないこともあるようです。ご子息・ご息女が大学生となり、家族で過ごす時間が減っているかもしれませんが、機会があれば、お互いスマートフォンを置いて、大学での様子について対話をしてみてください。

スチューデントサービスセンター長兼健康支援室長 平岡善浩

＝ご報告＝ 令和6年度事業報告・決算、令和7年度事業計画・予算は、令和7年4月19日の総会で可決されました。

一般会計

収入					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
会費	18,100,000	17,820,000	会員、終身会員		18,100,000	
繰越金	4,863,101	4,863,101			3,952,559	
合計	22,963,101	22,683,101			22,052,559	

支出					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
事務費	2,850,000	2,675,076	人件費、通信費等		3,300,000	
会議費	550,000	439,590	費用弁償等		520,000	
事業費	13,256,000	10,469,126	学生会活動助成、資格取得奨励金、進路対策支援費用、主催事業と会報発行費用など		13,310,000	
入学記念事業費	450,000	431,750	校章ピンバッチ購入費用		450,000	
卒業記念積立金	2,250,000	2,215,000	特別会計へ		2,250,000	
記念事業等積立金	1,500,000	1,500,000	特別会計へ		1,500,000	
目的積立R5	1,000,000	1,000,000	特別会計へ		0	
予備費	1,107,101	0			722,559	
合計	22,963,101	18,730,542			22,052,559	

令和6年度事業報告

会議	総会、理事会(6)、正副会長会議(6)、各種検討委員会(3)、学生との意見交換会など()内は開催回数
支援事業	3団体と12サークルに運営費や活動費を助成 資格を取得した18名に奨励金を支給 看護国家試験対策や自己分析・適職発見プログラム、業界研究セミナーなどの進路対策事業を支援 学生生活のアメニティの向上と食に支援
記念事業	入学記念品、卒業記念品の贈呈、25周年記念事業実施
主催事業	MYUサポーターズデイ、立川志らく公演会、終身会員の集い
会報発行	63号と64号

令和7年度事業計画

会議	総会、理事会、各種検討委員会、学生との意見交換会など
支援事業	学生会活動などへの助成、資格取得奨励金支給、進路対策事業支援など、学生生活のアメニティの向上と食に支援
記念事業	入学記念品、卒業記念品など
主催事業	MYUサポーターズデイ、講演会、終身会員の集い
会報発行	65号と66号

特別会計

◆卒業記念事業積立金◆

収入					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
積立金	2,250,000	2,215,000	一般会計より 入学生443名×5,000円		2,250,000	
繰越金	8,625,005	8,625,005			8,882,581	
合計	10,875,005	10,840,005			11,132,581	

支出					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
事業費	2,250,000	1,957,424	卒業記念品購入費用など		2,250,000	
卒業記念事業積立金	8,625,005	8,882,581			8,882,581	
合計	10,875,005	10,840,005			11,132,581	

◆記念事業等積立金◆

収入					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
積立金	2,500,000	2,500,000	一般会計より(目的積立含む)		1,500,000	
繰越金	12,345,127	12,345,127			8,506,520	
合計	14,845,127	14,845,127			10,006,520	

支出					単位：円	
項目	R6年度予算額	決算額	備 考		R7年度予算額	
事業費1	2,304,080	433,580	学生移動用バスへのラッピング費用(25周年記念)		0	
事業費2	9,058,401	5,805,866	学生・大学支援事業費用 学生共用キッチンリニューアル、学食メニュー全品半額DAY、カフェテリア前のテーブル・チェア更新、ウォーターサーバーレンタルの費用など		3,033,000	
事務費	100,000	99,161	終身会員の集い運営費用		100,000	
記念事業等積立金	3,382,646	8,506,520			6,873,520	
合計	14,845,127	14,845,127			10,006,520	



令和7年度宮城大学入学式

令和7年4月3日（木）午前、イズミティ 21大ホールにおいて、入学式が挙行されました。学群、研究科の新入生およびご家族の皆様が一堂のもとに集いました。またインターネットでも同時配信されました。

今年度の入学者数は、学群生442名（看護98名、事業構想214名、食産業130名）、大学院生42名の合計484名です。

佐々木啓一学長は式辞において、「自ら学ぶこと」「挑戦すること」「つながりを築くこと」の3つを大切にしていきたいと、新入生への思いを語りました。「自分は何を学びたいのか、どのように成長したいのかを常に自身に問い続け、主体的に選択すること」「未知の領域に積極的に挑戦すること」「自分の知らない世界に目を向け、多様な人々と出会いを重ねること」を大事にしていきたいと助言を送りました。

式終了後には、新入生とご家族が、街中で思い思いの食事をとり、午後からは同ホールでの学生表彰式と全学オリエンテーションに臨み、15時30分に入学式後1日目のスケジュールを終了しました。



令和7年度 入学記念事業

大学の
シンボルマークを
模った校章バッジを
新入生へ贈りました



令和7年度入学 宮城大学入学者選抜試験実施状況

学 群	募集 人員	実質競 争倍率	入学 者数	入学者詳細				
				性 別		出身校		
				男	女	県内	県外	その他
看 護	95	2.7	98	5	93	57	41	0
事 業 構 想	200	2.8	214	84	130	129	84	1
食 産 業	125	2.1	130	44	86	58	72	0
合 計	420	2.6	442	133	309	244	197	1

※出身校は、卒業高校等所在地で分類（外国人留学生、高等学校卒業程度認定試験受験者はその他に分類）

令和7年度入学 宮城大学大学院入学者選抜試験実施状況

研 究 科	募集 人員	実質競 争倍率	入学 者数	入学者詳細	
				性 別	
				男	女
看護学研究科博士前期課程	10	1.1	8	0	8
看護学研究科博士後期課程	3	1.7	3	1	2
事業構想学研究科博士前期課程	20	1.1	17	12	5
事業構想学研究科博士後期課程	3	1.0	2	2	0
食産業学研究科博士前期課程	13	1.1	10	4	6
食産業学研究科博士後期課程	3	1.0	2	1	1
合 計	52	1.1	42	20	22

新入生交流事業「コンボケーションデイ」

初めての体験で新たな視点の発見 多様性の尊重・他者への理解

令和7年4月18日（金）、大和キャンパスを会場に新入生413名が参加しコンボケーションデイを実施しました。

コンボケーションデイとは、2つのキャンパスに所属する3つの学群の新入生が交流する企画を通じて、他者との交流・他者理解を深め、宮城大学生としての一体感を高めることを目的としています。今年度は、講演と体験企画の2部構成で実施しました。

一般社団法人共同通信社 編集局次長 山脇 絵里子氏による「誰もが生きやすい社会を作るには～多様性と主体性～」と題した講演では、社会や組織にとって、一人ひとりが性別や年齢、国籍、障がいの有無、性的指向といった多様性を尊重し関わっていくことが大切であることについて、認識を深めることができました。

パラスポーツであるブラインドサッカーのクラブチーム『コルジャ仙台』による体験企画では、学生たちがグループに分かれ、実技披

露とボールを使ったレクリエーションやアイマスクを着用したレクリエーション、アイマスクと白杖を使用した歩行訓練を体験し、視覚障がいのある方への理解を深める機会となったほか、学生同士が普段とは違う状況で、協力してレクリエーションに取り組むことで、学群を超えた交流を行うことができました。

振り返りでは、「他学群の学生と交流でき、レクリエーションでは想像していた以上に盛り上がり楽しかった」「見えないことへの恐怖や苦勞を実際に体験し、必要な支援とはどのようなものかを考える機会になった」「講演を聴き、事件当事者の視点や時代に合わせた柔軟な対応の重要性について学ぶことができた」といった回答が寄せられ、多くの学生が企画のねらいを理解し、コミュニケーションの大切さや他者への理解を学ぶことができた振り返っていました。

学生支援課学生支援グループ

講演シーン



ボールを使った
レクリエーション



アイマスクを着用した
レクリエーション



アイマスクと白杖を
使用した歩行訓練



「でるコン2025」オープニングイベント

開催

2025年7月9日（水）、太白キャンパスを会場に第2回 MYU アイデアコンテスト「でるコン2025」のオープニングイベントが開催されました。

冒頭、佐々木学長がビデオメッセージを寄せ、「地域社会の活性化やイノベーションにつながる若者らしい活力と飛び出たアイデアを期待している」とエールを送りました。続く企画説明では、高山准教授が「でるコン」を立ち上げた経緯を説明し、「考えていること、挑戦したいことを具体的な形にして応募してほしい」と呼びかけました。

トークイベントでは、本学卒業生の G M O プレイアド株式会社代表取締役の富岡信之氏と P i i z 株式会社の畠山琢磨氏が登壇しました。富岡氏は自身の大学時代の経験を踏まえ、アイデアを実行に移すことの重要性を強調するとともに、アイデアを実現するための能力を鍛えておくようアドバイスしました。畠山氏は、廃棄されるしいたけの菌床をカプトムシの飼育に活用し、良質な堆肥を作って多肉植物を生産するという地域資源の循環と、障がい者の就労支援を両立するビジ

ネスモデルを紹介しました。

Q & A セッションでは3つのテーマに回答。「ビジネスアイデアはどんな時に思いつくか」という質問に対し、富岡氏は課題が顕在化している場合のアプローチと思考が自由になっている状態から生まれる場合を紹介。畠山氏は「好奇心を持ち、あえて普段やらないことに挑戦することでアイデアは生まれる」と語りました。

昨年度の受賞者による活動報告も行われ、チーム M o t t o n e y o の吉田陸人さんは、睡眠アプリの試作状況と睡眠市場、先行事例等の調査結果を発表するとともに学問的な裏付けの重要性を述べました。チーム R U I K U の高森琉碧さんは、制作したゲームの販売やゲームマーケットへの出展の経験を報告し、挑戦することの価値を伝えました。講師からは、ピッチへの積極的な参加、E C 展開、知的財産の保護などの講評が寄せられました。

イベントは盛況のうちに閉会し、その後の交流会では、参加学生が講師や先輩を囲み、熱心に質問する姿が見られました。



オープニング



募集内容や活動費の説明



起業した卒業生からアドバイス



2024年でコン受賞者の活動報告(吉田さん)



2024年でコン受賞者の活動報告(高森さん)

▶ でるコンとは？

宮城大学は、地域社会の発展と社会イノベーションにとって重要な3つの領域（事業構想学、食産業学、看護学）での社会的な課題と密接に関連した研究や社会との共創、そしてこれらの実学に基づき、変革する社会を生き抜き、次代を拓く人材を育成しています。

社会が大きく変革する今、学生の皆さんには大きなチャンス、可能性が待っています。学生の「もっとこうだったらいいな」「こんなのがあったらいいのに」という思いを実現するアイデアを第2回 MYU アイデアコンテスト「でるコン2025」で募集しています。

留学体験記

多文化共生国家で得た新たな自分

事業構想学群地域創生学類 3年 門間 すず花

留学は、私にとって単なる勉強ではなく、自分を見つめ直し、大きく成長するきっかけとなった人生の転機でした。

私はオーストラリア・ゴールドコーストに1年間留学し、多様な価値観や文化に触れる中で、それまでの自分の考え方に変化が生まれ、視野が大きく広がりました。

留学を意識し始めたのは大学1年。「このまま大学生活を送り、卒業して就職することが本当に自分の望み道なのだろうか」と、将来に対する漠然とした不安を抱いていました。そんなとき、「海外で学ぶ」ことが頭に浮かびました。とはいえ、すぐに長期留学に踏み切る勇気はなく、まずは大学2年の夏休みに、1ヶ月間の短期語学留学に挑戦することにしました。

渡航先を選んだのはオーストラリア・メルボルン。タイやコロンビアなど様々な国から来た仲間と毎日英語を学びました。多国籍な環境の中で暮らす経験は非常に刺激的で、多くの気づきがありました。「この国でもっと学びたい」と強く思うようになり、長期留学を決意しました。

株の動向について5週間調査した結果のプレゼンテーション中



資金面と家族の説得でした。私は、自分がなぜ留学したいのか、将来にどうつながるのかをプレゼン資料にまとめ、両親に真剣に説明しました。また、費用は自分で工面するという条件だったため、奨学金や教育ローンなど多くの制度を調べて申請し、何とか留学を実現させました。

留学中は、台湾、コロンビア、ブラジルなど多国籍の友人たちと過ごしました。生活習慣や価値観の違いに戸惑うこともありましたが、オーストラリアでは考え方が多様で、それぞれの違いを尊重し合う文化が根付いていました。「日本人だから」「外国人だから」といった固定観念ではなく、個人として相手と向き合う姿勢を、私は日常の中で身につけていきました。

留学を通して得た「多様性を受け入れる力」や「自分から一歩踏み出す力」は、今後、地域創生や国際的な仕事に携わりたい私にとって大きな財産になると感じています。

こうした経験ができたのも、大学、家族、そして学生を支えてくださっている後援会の皆さまのおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。



フィンランド人の友人と帰国前にカフェに行った時の写真

これまでの経験を生かして

ゆるか やすこ
食産業学群 准教授 緩鹿 泰子



宮城大学に2022年10月に着任し、今年で教員生活3年目を迎えます。私の専門は「食品流通」です。現代社会において、私たちは消費するものを自らが生産するのではなく、ほとんどの場合、他の人が生産したものを消費しているため、流通がなくては生活が成り立ちません。「食品流通論」の講義では、そうした流通の必要性和役割、流通主体といった豊かな食生活を支える食品流通の土台となる基礎的知識に加え、多様化する現代の食品流通の実態について、様々な角度から教えています。

研究内容については、「食と農の持続可能性」を軸に、幅広い領域での実証研究を行っています。具体的には、食品産業における原料調達行動や食品企業と農業との連携に関する研究のほか、未利用・低利用の食資源や地場食材を活用した新たなビジネス・サプライチェーンの構築に関する研究(プロジェクトに参画)に加え、フードテック関連のプロジェクトに参画し、新規食品技術の導入と消費者受容性を探る研究にも取り組んでいます。また、前々職での農業法人における経営継承や雇用・人的資源マネジメントに関する研究を通じて、持続可能な農業組織づくりに関する研究にも取り組んでいます。

す。研究に関しましては、本学の教員紹介に研究成果が記載されておりますので、もし興味を持っていただけでしたら、そちらをご覧くださいと幸いです。

このような研究を生かし、学生の卒業研究の指導に当たっております。私の研究室は2023年にスタートし、今年の3月に4名の第1期生を送り出したばかりで、まだ日の浅い研究室です。今年は4年生が5名、後期から3年生が5名の計10名となります。ゼミについては、3年時では自身の興味・関心を持つ業界や企業について調査・検討を行い、卒業研究に向けた土台作りをします。4年時では、3年時に調査・検討を行った内容を踏まえ、各自でテーマを選定し、卒業研究を進めています。卒業研究のテーマは昨年度同様に、今年も多様ですが、研究して楽しかったと感じてもらえるような指導を目指したいと思っています。

これまでの様々な分野での経験を研究だけでなく、教育にも役立てていきたいと思っておりますので、温かく見守っていただけますと幸いです。



緩鹿先生の教員紹介はこちら▲

絆

No.34

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。
今回は後援会理事の磯哲章さんです。ご子息が2年生の時から後援会の運営に携わっていただき、今年で4年目となります。後援会として宮城大学への思いをお寄せいただきました。

大学生活を見守る親としての思いを込めて

後援会理事(終身会員) 磯 哲章

◆後援会との出会い

離れて暮らす息子の様子が少しでも分かればという思いから理事を引き受けたものの、茨城県つくば市で暮らす私に務まるのか、正直不安でした。

思えば、私も大学時代は親元を離れていました。両親は私の大学生活のことはよく知らないままの4年間でした。その後悔もあり、息子が勉学に励む宮城大学のこと、一人暮らしを送る仙台の街のことをもっと知りたい、そんな思いからのスタートでした。2ヶ月に一度、仙台を訪れ、大学の構内を歩き、理事会の後、息子と食事をするのが楽しみでした。

息子はこの春卒業しましたが、私は理事を続けさせて頂いております。息子のいない仙台は何か物足りず、どこか違った景色にも見えますが、お世話になった宮城大学と学生の皆様の為に、恩返しのような気持ちで、少しでもお役に立ちたいと思っています。

◆宮城大学への思い

コロナ禍で迎えた入学式当日、妻と近くのホテルで配信を観ました。このような窮屈な状況下で、息子はうまくやっていくのか心配でした。

それは全くの取り越し苦労でした。いつの間にか友人が増え、様々な地域に足を運び、名産品を地元の方々と一体になってPRしたり、その縁から塩釜のラジオに出

演したり、活発に過ごす様子を嬉しく見守っております。

一人暮らし初日にアパートの前で見た寂しそうな表情は忘れませんが、そんな息子を成長させてくれたのは、宮城大学であり、宮城の土地柄、心から感謝しております。

息子も社会人となり、自宅から都内に通勤していますが、今でも大学時代の友人とは連絡を取り合い、都内で会ったり、頻繁に仙台も訪れたりしているようです。

母校は一生もの、むしろ卒業してから想うものかもしれません。多様な学生が切磋琢磨し、互いを尊重しながら自身を磨いていく、息子を通じて感じた宮城大学の魅力です。宮城大学の益々の発展を願い、後援会理事としてその一助となれば幸いです。



友人と息子(右)



息子が塩釜のラジオに出演

令和6年度 宮城大学学位記授与式

令和7年3月19日、令和6年度宮城大学学位記授与式が大和キャンパス講堂にて開催されました。今年も全学群及び研究科が一堂に会しての開催となりました。式典の様子は、インターネットで同時配信されました。

学群の卒業生420名を含む、447名が卒業・修了を迎えました。

式辞において、佐々木啓一学長より「[コロナ禍において]知識と経験を積み重ねてこられた皆さんの努力には、改めて大きな拍手を送りたいと思います」「私たちに求められるのは[物事の本質を見極め、幸福な社会の実現のために尽力する]という姿勢です」「皆さんも、(中略)宮城大学で培った知性と実践力を生かして、新しい価値や社会システム、ビジネスを創造し、人々の暮らしを一層豊かにするため、力強く前進してください」とエールが送られました。

また、「皆さんはいつまでも宮城大学コミュニティの一員です」「宮城大学が紡いできたネットワークや精神を共有しながら、ともに未来を創ってまいりましょう」と期待が寄せられました。



令和6年度学生表彰

在学中に研究活動、課外活動、社会活動、学業に顕著な成果をおさめた学生が表彰されました。(学年は令和6年度で掲載)

学長奨励賞

一研究活動において、顕著な成果をあげたもの一

- 佐藤 陽(看護学群 4年)
「レモンやその成分による抗アレルギー作用とそのメカニズム」を明らかに
- 菊田 優羽(看護学群 4年)
第56回東北生理談話会において地方会賞(若手研究者部門・優秀賞)を受賞
- 朝長 夏凜、高橋 里緒(事業構想学群 4年)
コクヨデザインアワード2024においてNEW GENERATION賞を受賞
- 菅野 真唯(事業構想学群 4年)
「生成AI×教育」妄想アイデアオーディションにおいて「子供の学びワクワク部門」優秀賞を受賞
- ちょこうどん 松野 聡美、栗原 桜子、山内 涼真(事業構想学群 4年)
アーバンデータチャレンジ2023において学生奨励賞を受賞
- 相澤 佑斗(事業構想学群研究科博士前期 1年)
第10回日本建築学会東北支部建築デザイン発表会において発表賞を受賞

一社会活動において、顕著な成果をあげたもの一

- 発酵化学研究室
矢内 菜里奈、阿部 旭、武石 真子、宮川 咲良、
吉田 穂香(食産業学群 3年)
学部「仙台・宮城」サイエンス・デイ2024において「学び支援協会理事長賞」、
「サイエンスオブザイヤー JST理事長賞」の2つの賞を受賞
- 宮城大学生協同組合学生委員会
看護学群生11名、事業構想学群生11名、食産業学群生34名
新入生に寄り添い在学生の相互の絆をつなぐ草の根活動
- 佐藤 奈穂、堀内 友梨香(食産業学群 4年)
「わたしの“推し”パンフォトコンテスト」においてグランプリを受賞

一その他の活動において、顕著な成果をあげたもの一

- 氏家 万智、秋保 早希(事業構想学群 3年)
宮城大学キャンパスの「自然共生サイト」登録に尽力
- 宮城大学能登半島地震被災地支援ボランティア団体
菅原 野、曽根 咲桜、中村 紘衣、沼山 夏芽 (食産業学群 4年)、
木津 初音、水戸 媛香、佐藤 朝咲 (食産業学群 2年)
能登半島地震の被災地ボランティアとして避難所や被災住宅にて様々な支援活動に従事
- だんボウリングProject 高倉 大知、田中 舞風(事業構想学群 4年)
「みやぎスマイル」基金助成事業の活動報告会において河北新報社賞を受賞
- 石川研究室
伊藤 歩美、方 楊(食産業学研究科博士前期 2年)、
石岡 玲、佐藤 紘依、杉浦 妃舞、中塩 穂果、渡邊 紗雪(食産業学群 4年)
農場のフードロス食材を活用したハンドクリームの開発

成績優秀者表彰

一学業において、特に顕著な成績を修めたもの一

- 大宮 明日歌(看護学群 4年)
- 吉田 陸人(事業プランニング学群 4年)
- 南 晴日(地域創生学群 4年)
- 戸田 結梨香(価値創造デザイン学群 4年)
- 櫻井 夢乃(食資源開発学群 4年)
- 丹野 遥(フードマネジメント学群 4年)

令和6年度 卒業記念事業

卒業生へ記念品を贈呈いたしました。



繰り出し式ボールペン

卒業生からそれぞれのキャンパスにクイックテントが寄贈されました。
後援会はその費用を支援しています。



卒業記念



令和6年度 卒業生の進路(主な進路実績)

看護学群

看護学類

●就職先一例(順不同)

〔看護師〕

東北大学病院、東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、JCHO仙台病院、東北労災病院、宮城県立こども病院、宮城県立精神医療センター、坂総合病院、仙台オープン病院、東北公済病院、イムス明理会仙台総合病院、国見台病院、西仙台病院、松田病院、防衛医科大学学校病院、自治医科大学附属病院、新潟大学医歯学総合病院、国立成育医療研究センター、横浜市立市民病院、静岡県立こころの医療センター〔保健師〕

仙台市、角田市、登米市、東松島市、富谷市、柴田町、セキ浜町、大和町、涌谷町町民医療福祉センター、東京都江東区、調布市、一般財団法人新潟県けんこう財団

〔養護教諭〕

北海道教育委員会、福島県教育委員会、東北学院中学校・高等学校

〔その他〕

宮城県、秋田県農業協同組合中央会、青森県教育委員会、福島県教育委員会

●進学先一例(順不同)

東北大学大学院医学系研究科、福島県立医科大学別科助産学専攻、仙台医療センター附属仙台看護助産学校助産学科

事業構想学群

事業プランニング学類

●就職先一例(順不同)

(株)ドコモCS東北、(株)仙台放送、NECソリューションイノベータ(株)、富士通コミュニケーションサービス(株)、(株)ミライト・ワン、日本道路(株)、東亜道路工業(株)、トヨタ自動車東日本(株)、アイリスオーヤマ(株)、ヤマセ電気(株)、(株)七十七銀行、(株)仙台銀行、宮城県信用保証協会、(株)岩手銀行、日本生命保険相互会社、マイケル・ペイジ・インターナショナルジャパン(株)、(株)グロップ、宮城トヨタ自動車(株)、キャンマークティングジャパン(株)、(株)JR東日本クロスステーション、サントリービバレッジソリューション(株)、(株)マクロミル、アウル(株)、(株)エイエイビー、宮城県、東北地方整備局、東京国税局、(株)セレクトィー、(株)ユーメディア、(株)丸山運送、仙台ターミナルビル(株)

地域創生学類

●就職先一例(順不同)

宮城県、仙台市、大崎市、角田市、柴田町、青森県、熊本市、(株)七十七銀行、東北労働金庫、石巻信用金庫、東京海上日動火災保険(株)、第一生命保険(株)、(株)NTTデータ東北、エリクソン・ジャパン(株)、NECソリューションイノベータ(株)、日鉄ソリューションズ東日本(株)、(株)東急エージェンシー、一般社団法人日本自動車連盟、アイリスオーヤマ(株)、(株)藤崎、大和ハウスリアルティマネジメント(株)、みやぎ生活協同組合、仙台農業協同組合、(株)オノヤ、東日本旅客鉄道(株)、社会保険診療報酬支払基金

●進学先一例(順不同)

東北大学法学研究科、東北大学情報科学研究科

価値創造デザイン学類

●就職先一例(順不同)

(株)NTTデータ東北、(株)日立ソリューションズ東日本、(株)シルフィード、(株)トークネット、エリクソン・ジャパン(株)、ソフトバンク(株)、三井情報(株)、シャープマーケティングジャパン(株)、(株)ユアテック、(株)阿部和工務店、大和ハウス工業(株)、大和ハウスリフォーム(株)、トヨタ自動車東日本(株)、アイリスオーヤマ(株)、北日本電線(株)、(株)トーキ、(株)オカムラ、(株)東北博報堂、(株)博報堂プロダクツ、(株)マクロミル、(株)あたらす二十一、(株)マイナビ、一般社団法人日本自動車連盟、宮城県、多賀城市、宮古市、大仙市、(株)JTB、東北電力(株)、今野印刷(株)

●進学先一例(順不同)

東京大学大学院情報学環・学際情報学府、宮城大学大学院事業構想学研究科

食産業学群

食資源開発学類

●就職先一例(順不同)

(株)エネサンス東北、(株)エムアイフーズスタイル、(株)高速、国分東北(株)、JA全農ミートフーズ(株)、(株)仙台水産、東北ハニーフーズ(株)、東日本フード(株)、伊藤ハム米久プラント(株)、エスビー食品(株)、(株)鐘崎、太子食品工業(株)、日東ベスト(株)、日本食研ホールディングス(株)、フジフーズ(株)、宮城製粉(株)、イカリ消毒(株)、(株)BMLフード・サイエンス、(株)マイナビ、宮城県商工会連合会、一般社団法人宮城県畜産協会、独立行政法人農林水産消費安全技術センター、宮城県、全国農業協同組合連合会宮城県本部、ロイヤルホールディングス(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)ロジスティクス・ネットワーク、(株)七十七銀行、(株)仙台銀行、黒瀬水産(株)、西松建設(株)

●進学先一例(順不同)

宮城大学大学院食産業学研究科、東北大学大学院農学研究科、東北大学大学院生命科学研究所、広島大学大学院統合生命科学研究所

フードマネジメント学類

●就職先一例(順不同)

青葉化成(株)、亀田製菓(株)、キーコーヒー(株)、(株)グリーンデリカ、太子食品工業(株)、Dashi Corporation(株)、(株)ニチレイフーズ、日東ベスト(株)、日本食研ホールディングス(株)、(株)八葉水産、(株)ブルボン、マルハニチロ(株)、(株)ヤタロー、ライオン菓子(株)、(株)クスのアオキ、(株)高速、(株)日本アグセス、マックスバリュ関東(株)、三菱食品(株)、(株)ヨークベニマル、(株)ローソン、(株)ロック・フィールド、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北、日本物流(株)、(株)ロジスティクス・ネットワーク、アンビュ(株)、日本中央競馬会、全国農業協同組合連合会宮城県本部、新潟県、石巻信用金庫

●進学先一例(順不同)

宮城大学大学院食産業学研究科、東北大学大学院農学研究科

令和7年度MYU キャンパスカレンダー

令和7年

4月

3日(木) 入学式

8日(火) 前期授業開始

18日(金) 新入生コンボケーションデー

19日(土) 後援会総会

5月

1日(木) 開学記念日

6月

22日(日) 後援会主催事業 MYUサポーターズデイ(大和)

28日(土) 後援会主催事業 MYUサポーターズデイ(太白)

7月

20日(日) オープンキャンパス(太白)

27日(日) オープンキャンパス(大和)

8月

6日(水) 夏季休業(～9/28)

12日(火) 教職員夏季休暇(～8/18)

9月

19日(金) 学位記授与式(9月卒業分)

29日(月) 後期授業開始

10月

12日(日) 大和キャンパス大学祭 ～10/13

11月

2日(日) 太白キャンパス大学祭 ～11/3

22日(土) 後援会主催事業 竹田恒泰講演会

12月

26日(金) 冬季休業(～1/5)

29日(月) 教職員冬季休業(～1/4)

令和8年

2月

3日(月) 春季休業(～4/7)

3月

19日(木) 学位記授与式

大学祭実行委員会からのメッセージ

大和キャンパス大学祭開催！

今年の大学祭のテーマは「Bloom」です。Bloomには、花、開花、最盛期、花を咲かせる、(才能などが)花開くといった意味があります。大学生活は自由度が高く、新たな挑戦ができる場です。今年の大学祭が、学生一人ひとりの個性や才能を開花させ、自身の新たな魅力を見つける場であってほしいという願いを込めました。当日は、学生が企画・運営する個性豊かな模擬店が並びます。また、会場を盛り上げるライブや演出が連続し、その熱気が皆さんの心にも届くことでしょう。色とりどりの花々が一堂に会し、鮮やかに咲き誇る花畑のように、多彩な個性が交わり合う今年の大学祭。心温まるひとときをお届けできるよう、実行委員一同、準備を進めております。皆様のお越しを心よりお待ちしております！



大和キャンパス大学祭実行委員会 代表
事業構想学群事業プランニング学類2年 小原和夏

太白キャンパス大学祭開催！

皆さんこんにちは！
今年の学祭のテーマはHungry Campus～旬をガブ！育ちもバグ！～となっております。

まず、Hungryは食産業学群ならではの「食」をメインテーマに、更なる学び、成長しようとするハンガリー精神を表現したものです。またサブテーマは食材の旬、人生の旬、学びの旬、今しか味わえない瞬間を多くの人と分かち合いたいという意味が込められております。毎年、学生たちが趣向を凝らした模擬店を出店しています。食産業学群ならではのこだわりが詰まった一品一品をお楽しみください。また卒業生が手掛ける商品の販売や、サークルのステージ発表など、年代問わず、こころもお腹も満たされる二日間をお過ごしください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



太白キャンパス大学祭実行委員会 代表
食産業学群生物生産学類2年 石川陽菜

主催事業「講演会」開催のお知らせ

今年の「講演会」は、竹田恒泰さんを講師にお迎えします。竹田さんは、著名な評論家、作家、歴史学者として広く知られており、日本の歴史や文化に関する著書を多数執筆されています。その深い知識と洞察力は多くの人々に評価されています。また、竹田さんはテレビのコメンテーターとしても活躍しており、鋭い意見を発信しています。さらに、YouTubeチャンネルを運営し、多くの視聴者にわかりやすく情報を提供しています。中学社会用の国史教科書第7版を著すなど、日本の歴史や文化を再認識するきっかけを提供している竹田さんの講演を、ぜひお楽しみください。(お申込み方法は同封のチラシをご覧ください)

大学ではSNSでも情報を発信してます
フォロー・いいね お願いします！



Instagram



X(Twitter)



YouTube

お問い合わせの際は、学生の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

編集後記



7月のオープンキャンパスでは、学生による生活相談や課外活動の紹介など、学生ならではの企画が盛りだくさんでした。来場された高校生や保護者の皆さまにも、大学生活を具体的にイメージしていただけた一日になったのではないのでしょうか。また、今回の誌面では、教員のコメントを「研究室紹介」にまとめました。ゼミや研究の様子を、少しでも身近に感じていただけたら嬉しいです！過去の会報誌はこちらから <http://www.myu.ac.jp/campus/support/> ご覧になれます。

